

2025 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験

【 専門科目・共通問題 】
問題冊子

試験開始まで次の注意事項を熟読すること。

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子は開かないこと。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁、および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答は問題の指示に従い解答用紙の所定欄に黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入すること。
【重要】問題の指示に沿った方法で解答用紙に解答を記入すること。
4. 次の解答用紙の所定欄に受験番号・氏名を必ず記入すること。

「共通問題」の解答用紙(1枚)

解答用紙の所定欄に受験番号・氏名の記入がない場合は採点対象としない。

5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

■ 共通問題

はじめに専門科目「共通問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。試験開始から 45 分経過した時点で一度試験を中断し、「共通問題」の解答用紙を回収します。回収後「選択問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。

■ 選択問題

「共通問題」の解答用紙を回収後、「選択問題」の問題冊子と解答用紙を配付します。配付の完了後に試験を再開し、残り 45 分の試験時間を設けて、全体で 90 分を確保します。

6. 各研究領域の選択問題のページ番号は、試験再開後に「専門科目・**選択問題**」問題冊子 p.1 の目次を参照すること。出願した研究領域以外の問題を解答した場合は採点対象としない。
7. 出願した研究領域の選択問題の中から**1 題を選択し**解答すること。
2 題以上解答した場合は採点対象としない。
8. **【重要】**選択した問題で指定されている解答方法に従って解答すること。
9. 選択した問題の番号を、解答用紙の「選択した問題番号」欄に必ず記入すること。

「選択した問題番号」欄に記入がない場合は採点対象としない。

【記入例】A-1 の問題を選択した場合

A - 1

■ 解答用紙の回収【重要】

10. いかなる場合でも以下の解答用紙を必ず提出すること。
 - ①「共通問題」の解答用紙(1枚)…試験開始から 45 分経過した時点で回収
 - ②「選択問題」の解答用紙(1枚)…共通問題の解答用紙回収後に配付し、専門科目すべての試験が終了した時点で回収
11. すべての試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

以上

2025 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制入学試験
【共通問題】問題冊子

目次

I. 共通問題・・・・・・・・ 2～4

選択問題の問題冊子と解答用紙は、共通問題の解答用紙回収後に配付する

2025 年度 早稲田大学 大学院人間科学研究科
修士課程 2 年制 入学試験問題
【共通問題】

表 1、2、図 1 - 3 は、日本国内におけるプラスチックごみ排出量とその有効利用の年次推移、プラスチックごみ問題に関する意識調査、および、プラスチックリサイクル法と二酸化炭素排出量削減効果についての抜粋である。これらの図表を参考にして、次の設問 1 - 3 に答えよ。

設問1 日本における近年のプラスチックごみの排出量とリサイクル（有効利用）の動向を述べよ。また、地球温暖化問題と関連づけた場合、現状どのような課題があるか、自身の考えを述べよ。関連する図表を引用しながら、合わせて 200 - 300 字で述べること。

設問2 プラスチックごみの削減にむけた行動変容を促すという目的達成のため、あなたなら、どの年代の人々にどのような働きかけをしますか？最も効果的と思われる働きかけを考えて、関連する図表を引用しながら 200 - 300 字で説明しなさい。

設問3 図表を参考にしながら、現代日本におけるプラスチックごみ問題について、自然環境・社会・文化・産業・歴史・健康・心理・情報・教育・その他、自身が関連する学問分野の観点から 200 - 300 字で論じなさい。なお、論述の中で、自身がどのような観点から論じているかを明示すること。

表 1. 1980 年から 2022 年までの日本におけるプラスチックごみ総排出量の年次推移

西暦（年）	総排出量 （万トン）	西暦（年）	総排出量 （万トン）	西暦（年）	総排出量 （万トン）	西暦（年）	総排出量 （万トン）
1980	326	1991	622	2002	990	2013	940
1981	349	1992	690	2003	1001	2014	926
1982	354	1993	756	2004	1013	2015	879
1983	369	1994	846	2005	1006	2016	860
1984	399	1995	884	2006	1005	2017	863
1985	419	1996	909	2007	994	2018	861
1986	453	1997	949	2008	998	2019	850
1987	465	1998	984	2009	912	2020	822
1988	488	1999	976	2010	945	2021	824
1989	506	2000	997	2011	952	2022	823
1990	557	2001	1016	2012	929		

※2015 年以降のデータは 2020 年度に見直しを行った最新のデータを基に再計算して求めた。

※WEB 掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会

2022 年 プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況
<https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf2.pdf>

※2023 年度以降、推算に必要な各係数を見直し、2015 年まで遡及して算出しているため、2015 年以降の廃プラスチックの総排出量や各リサイクル方法での有効利用量等の値は、2022 年版と異なることがあります。

表 2. 廃プラスチックの有効利用による二酸化炭素の削減効果(2022年)

	処理・処分方法	廃棄物量		二酸化炭素削減貢献量(万トン)			
		重量(万トン)	割合(%)	一般廃棄物	産業廃棄物	計	
有効利用	マテリアルリサイクル	180	22	337	593	930	
	ケミカルリサイクル	28	3	101	3	104	
	サーマルリサイクル	ガス化(燃料利用)	13	2	14	28	41
		固形燃料/セメント原・燃料	189	23	55	469	524
		発電焼却	260	32	159	25	184
		熱利用焼却	48	6	2	3	5
未利用	単純焼却	61	7	0	0	0	
	埋め立て	46	6	0	0	0	

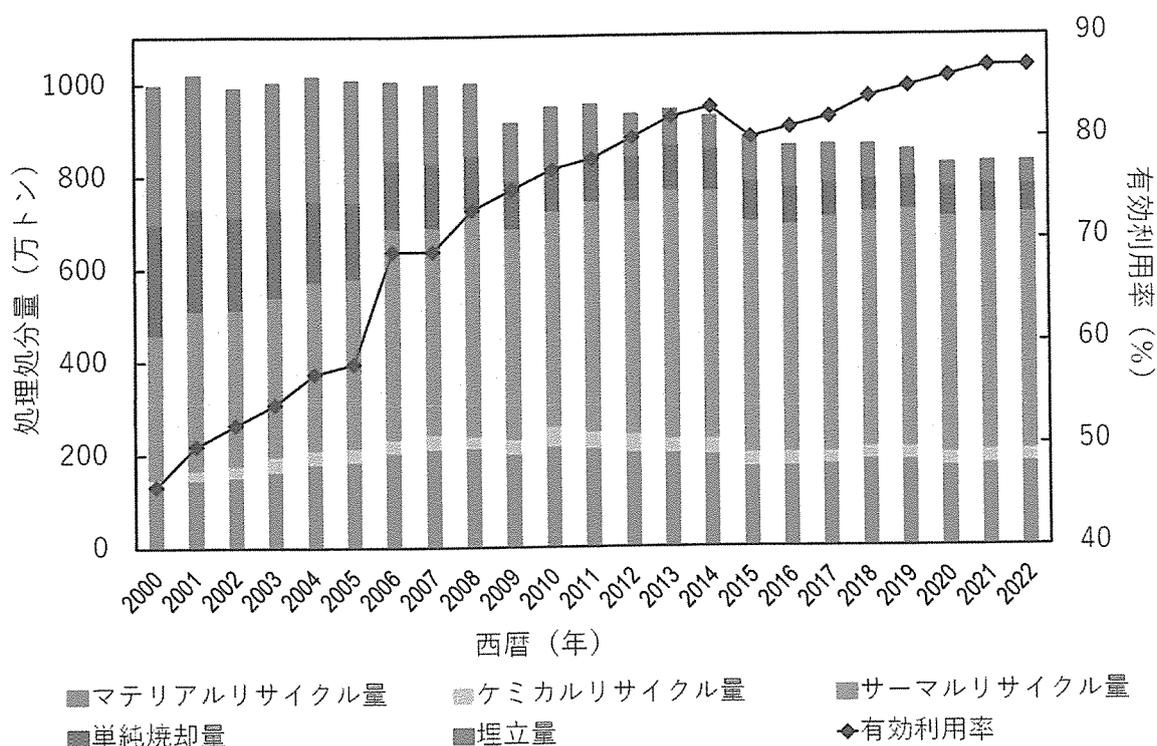


図1. 日本におけるプラスチックごみの排出量・有効利用／未利用量・有効利用率の推移

注) マテリアルリサイクル量：再生利用量

ケミカルリサイクル量：高炉・コークス炉原料、ガス化(原料利用)、油化利用量

サーマルリサイクル量：ガス化(燃料利用)、固形燃料/セメント原・燃料、発電焼却、熱利用焼却利用量

$$\text{有効利用率(\%)} = (\text{有効利用量} / \text{プラスチックごみ総排出量}) \times 100$$

※2015年以降のデータは2020年度に見直しを行った最新のデータを基に再計算して求めた。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会

2022年 プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況

<https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf2.pdf>

※2023年度以降、推算に必要な各係数を見直し、2015年まで遡及して算出しているため、2015年以降の廃プラスチックの総排出量や各リサイクル方法での有効利用量等の値は、2022年版と異なることがあります。

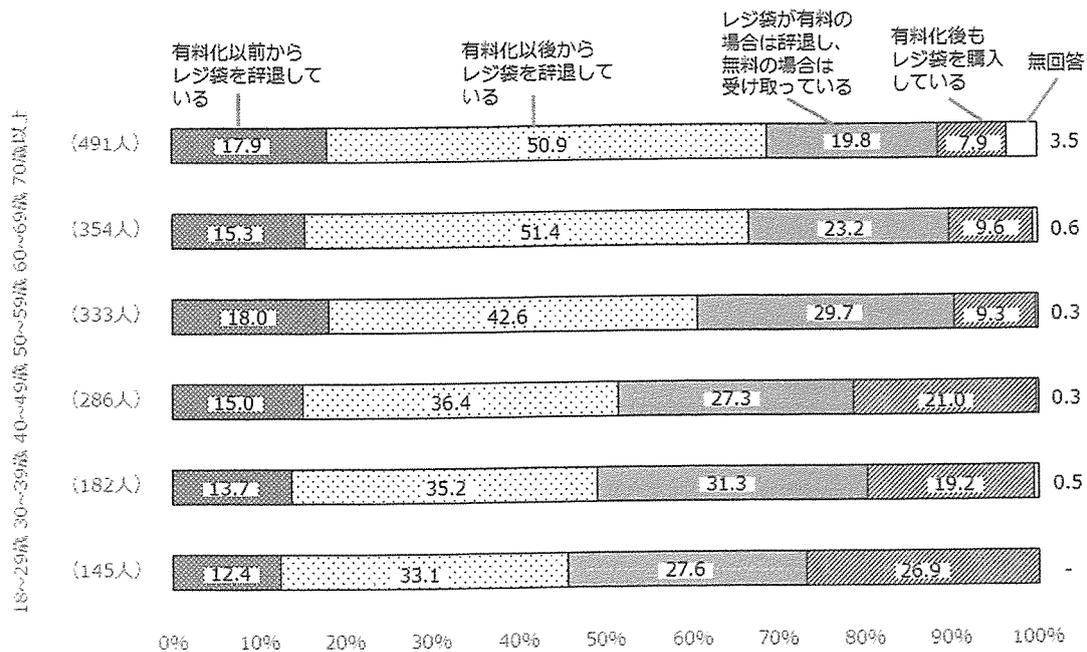


図2. レジ袋有料化以後のレジ袋の辞退状況

全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人を対象に「あなたは、2020 年 7 月にレジ袋有料化が始まってから、レジ袋を辞退するようになりましたか？」と尋ねた（1つのみ回答）（有効回収数 1,791 人、調査期間：2022 年 9 月 1 日～10 月 9 日）。

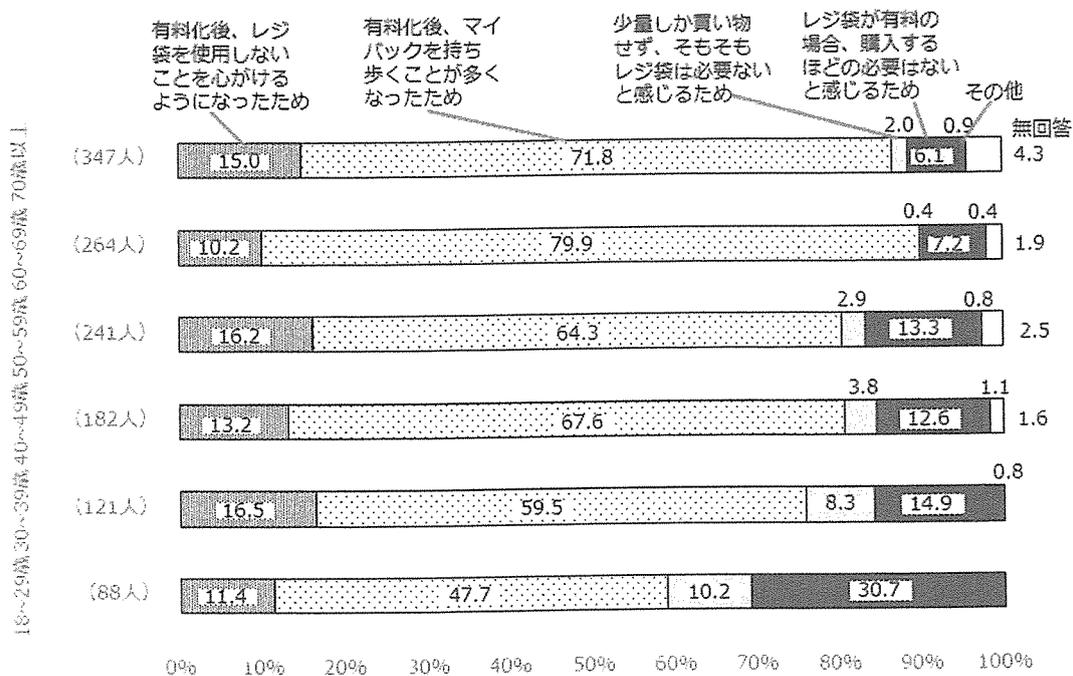


図3. レジ袋を辞退している理由

図2で「有料化以後からレジ袋を辞退している」、「レジ袋が有料の場合は辞退し、無料の場合は受け取っている」と答えた者に対し、「レジ袋を辞退している理由は何ですか」と尋ねた（1つのみ回答）。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。

出典：「プラスチックごみ問題に関する世論調査」の概要（内閣府）
<https://survey.gov-online.go.jp/hutai/r04/r04-plastic/gairyaku.pdf>
 p.3「レジ袋有料化後のレジ袋の辞退状況」グラフ
 p.5「レジ袋を辞退している理由」グラフを加工して作成

採点欄

受験 番号					
氏名					

【専門科目・共通問題（必須）】 解答用紙

0 5 10 15 20

解答欄

100

200

300

400

500

裏面を使用してもよい。

(こちらは裏面です)

